

# 特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 29

## ASEAN グローバルプログラム に参加して

岡田 明日翔  
Asuka OKADA  
機械システム工学科 2年

### 1. はじめに

このプログラムは8月28日から9月6日にかけてベトナム、シンガポールにて各国の企業（現地企業あるいは日系企業）および南洋理工大学の訪問、若手ビジネスパーソンとの交流、そしてハノイ工業大学生とのPBLなど将来に役立つ多くのことを学んだ。また、このプログラムの日程を以下の表1に示す。

表1 プログラムの日程

8月28日	ハノイ着, オリエンテーション
8月29日	鈴木栄光堂 (会社説明, 工場見学) Rikkei Soft/NTQ (会社説明, 交流会)
8月30日	ハノイ工業大学生とのPBL
8月31日	PBL プレゼン発表
9月1日	ハノイ観光, 自由時間
9月2日	シンガポール着, WASABI CREATION (講演会)
9月3日	南洋理工大学 (見学, 講義体験)
9月4日	Google 訪問, 若手ビジネスパーソン との交流, 加藤さんの講演会
9月5日	自由時間
9月6日	帰国

### 2. 参加目的

私は以前から海外に興味を持っており、時間がある大学生の内に海外に出てみたいと考えていた。今の世の中はグローバルの時代であり、社会人になって仕事で海外に行く事が多くあるが、一人ですべて行く事よりも皆で行って協力し合い海外に慣れる事ができる、と考えた。また、旅行では行く事ができ

ない企業訪問や大学の講義体験にて直接肌で感じ、知識の幅を増やすとともに将来助け合える海外の友達をつくり、人脈を増やしたいと思った。また、自分の英語能力に自信がなく、自分の英語能力でも海外の人々とコミュニケーションがとれるのかを実際に触れ合って確かめたいと思い、本プログラム参加した。

### 3. ハノイ工業大学生とのPBL

上記のプログラムの中で私が一番印象に残ったのは、「ハノイ工業大学生とのPBL」である。PBLとはProject Base Learningの略で、与えられたテーマ（今回は栄光堂ベトナムの餡をベトナム市場で大ヒットさせる）に従ってチームで協働し、組織で仕事をしながら課題を解決する学習である。PBLでは仮説作りがとても重要で、課題解決のためのアイデアを自分達で考え、その仮説を検証するために多くの人の意見を調査するアンケートを作った。仮説を考える時には4Pを考え、これはProduct（売れるもの）、Price（売れる値段）、Place（売りやすい場所・方法）、Promotion（売れる工夫）の4つのPのことをいう。そこで私たちの班では、それぞれ以下の表2のような仮説を考えた。

表2 仮説の設定

Product	今の餡のサイズを小さく 色を派手にして SNS 映え
Price	今回は変更なし
Place	粉ミルク売場の近く
Promotion	SNS を使ってインフルエンサー

そして、次のようなアンケート項目を作成した。

1. あなたは男性/女性ですか
2. 年齢はいくつですか
3. いつ餡を食べたくなりますか
4. どの餡の大きさを買いたいですか
5. 普段どこで餡を買いますか

6. 喉が痛いと感じたことはありますか
7. もし派手な飴があったら手に取りますか
8. どの種類の飴が欲しいですか

このアンケートを日本人5人とハノイ工業大学生2人で2日間にかけて大学のキャンパス内とイオンモールの中で調査した。調査で大変だったことは言葉の壁であった。大学内では英語が通じる学生がほとんどであったが、イオンモールの中では幅広い年齢の方で英語がわからない人も多かった。そのために、大学では380、イオンモールでは70件だけであった。ただし、英語が通じない人に対してはベトナム人学生の2人がベトナム語で説明しながら調査した。そして調査した結果以下の通りであった。

1. 飴をよく買う店
  - TT (Traditional Trade) 55%
  - MT (Modern Trade) 45%
2. 派手な色を好んで手に取るか
  - Yes 70%      No 30%
3. いまのサイズか今よりも小さいサイズの飴のどちらが欲しいか
  - 小さい 64%      同じ 36%
4. 何味の飴が欲しいか
  - フルーツ 43%
  - ソーダ 23%
  - コーヒー 16%
  - その他 18%

以上のことから、次のような結論を得た。

- ・日本とは異なり、ベトナムでは飴はスーパーなどの大型店で買われていない
- ・カラフルな飴が求められている
- ・今のサイズよりも小さいサイズの飴が求められている

- ・フルーツ味が好まれる

となった。

また、ベトナム人の方々との交流の中でベトナムには「女性の日」があることを知り、そこで女性にプレゼントする商品を考え、お花型の容器の中に飴を入れたら、可愛くて売れるのではと考えた。女性の日とは男性が女性に花やチョコレートを渡すベトナムではとても大切な日である。これらのことを分かりやすく紙に書いてプレゼンテーションの準備を行い、まず大学内で行う英語での発表の準備をした。そして、2日目には調査結果を大学内、および栄光堂ベトナム社長の福永さんとベトナムでマーケティングの仕事をしている田中さんの前でそれぞれプレゼンテーションをした。福永さんと田中さんは、私たちの発表に対して、良いことも悪いことも指摘していただき、たいへん勉強になった。そして、良い発表2件を表彰したが、私たちの班は選ばれなかった。しかし、班全員で力を合わせてプレゼンテーションの準備から発表までを行いながらメンバーの絆を深める事ができた。

#### 4. このプログラムを通して

チーム一丸となって自分たちの目標に向かって作業を行い、それを達成できた時の楽しさを知り、自分自身に足りないものがはっきりと理解でき、さらにベトナム人も日本人と同じように英語が第2言語であるにも関わらず、ハノイ工業大学の学生たちが英語を上手に話していたことなど、沢山の事を学べた。これをきっかけにして大学での学習にこれまで以上に取り組み同級生の仲間にもより影響を与えられる、人になろうと思った。また、これからも海外に行って日本とは異なる習慣や考え方を知り、社会人になったら海外からも日本に刺激を与えられる人間になろうと思った。